

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M3140101	臨床検査の基礎と疾病との関連 (Basic Clinical Laboratory Science and Disease)	専門科目 生命健康科学コース 専門分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	1	前	木曜・6限	加隈哲也、吉岩あおい、高野正幸、八尋隆明 内線：5033 E-mail：kakuma@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

医学、医療、臨床検査の概要を学ぶと共に疾病との関連を理解する科目である。健康の概念から、医学の歴史、医学倫理、進歩する医療技術、先端医療、高齢化社会、緩和医療、チーム医療などの概要を修学し、医療人として基盤となるべき考え方、知識を身につけることを目標とする。さらに、疾病との関わりを理解するために「微生物と疾病の関連」「栄養と疾病の関連」「認知症に関する基礎知識（原因・中核症状・BPSD(行動・心理症状)・検査方法・診断・治療・予防など)」を修学する。

具体的な到達目標	ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 栄養過多に関連する疾病について説明できる	○				○	
2. 微生物や生理機能と疾病との関りを説明できる	○					
3. 認知症の検査法について説明できる	○					
4. 検査結果の解析と評価ができる	○					

【授業の内容】

1	医学の歴史、医学倫理、医療技術の進歩 (吉岩)
2	先端医療、高齢化社会、緩和医療、チーム医療 (加隈)
3	微生物と疾病の関連 1 微生物の分類・微細構造と機能 (八尋)
4	微生物と疾病の関連 2 微生物の病原性と感染症 (八尋)
5	生理機能と疾病の関連 1 神経、筋、感覚、運動 (吉岩)
6	生理機能と疾病の関連 2 循環、呼吸 (高野)
7	生理機能と疾病の関連 3 代謝・栄養・内分泌 (加隈)
8	肥満症/メタボリックシンドローム (加隈)
9	肥満症の非薬物療法 / 認知行動療法 (加隈)
10	糖尿病治療とチーム医療 (加隈)
11	認知症の原因・中核症状・BPSD(行動・心理症状) (吉岩)
12	認知症の検査・診断・治療・予防・患者心理と対応 (吉岩)
13	認知機能の評価尺度 (吉岩)
14	行動・心理症状の評価尺度 (吉岩)
15	総括 (臓器別疾病の原因・症候と検査診断学) (高野)

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	穴埋め資料、小テスト、レポート	Moodle を利用し、講義資料の提示を行い、 予習・復習を推進する
B：意見の表現・交換	○	グループによる発表	
C：応用志向	○	持続皮下自己血糖測定の実演	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	教科書、参考資料を用いた予習 (1h)。
事後学修	レポートをグループ単位で作成させ、授業内容の習熟に努める (1h)。

【教科書】教科書を指定しない

【参考書】最新 臨床医学講座シリーズ 医療安全管理学、検査総合管理学、保健医療福祉概論ほか
医歯薬出版株式会社

【成績評価方法及び評価の割合】						
評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	
小テスト、レポート	20%	○	○	○	○	
筆記試験	80%	○	○	○	○	
【注意事項】 レポートの提出が期末試験の受験資格となる						
【備考】 Moodle に講義資料があげられた場合には、コピーの上、受講すること						
教員の実務経験の有無	○	加隈哲也、吉岩あおい、高野正幸、八尋隆明				
教員の実務経験	医師、臨床検査技師					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実務経験をいかした教育内容	臨床経験を活かした講義、アクティブラーニングを行う					
授業形態	基本的に対面（新型コロナ感染状況によりリモートも検討）					